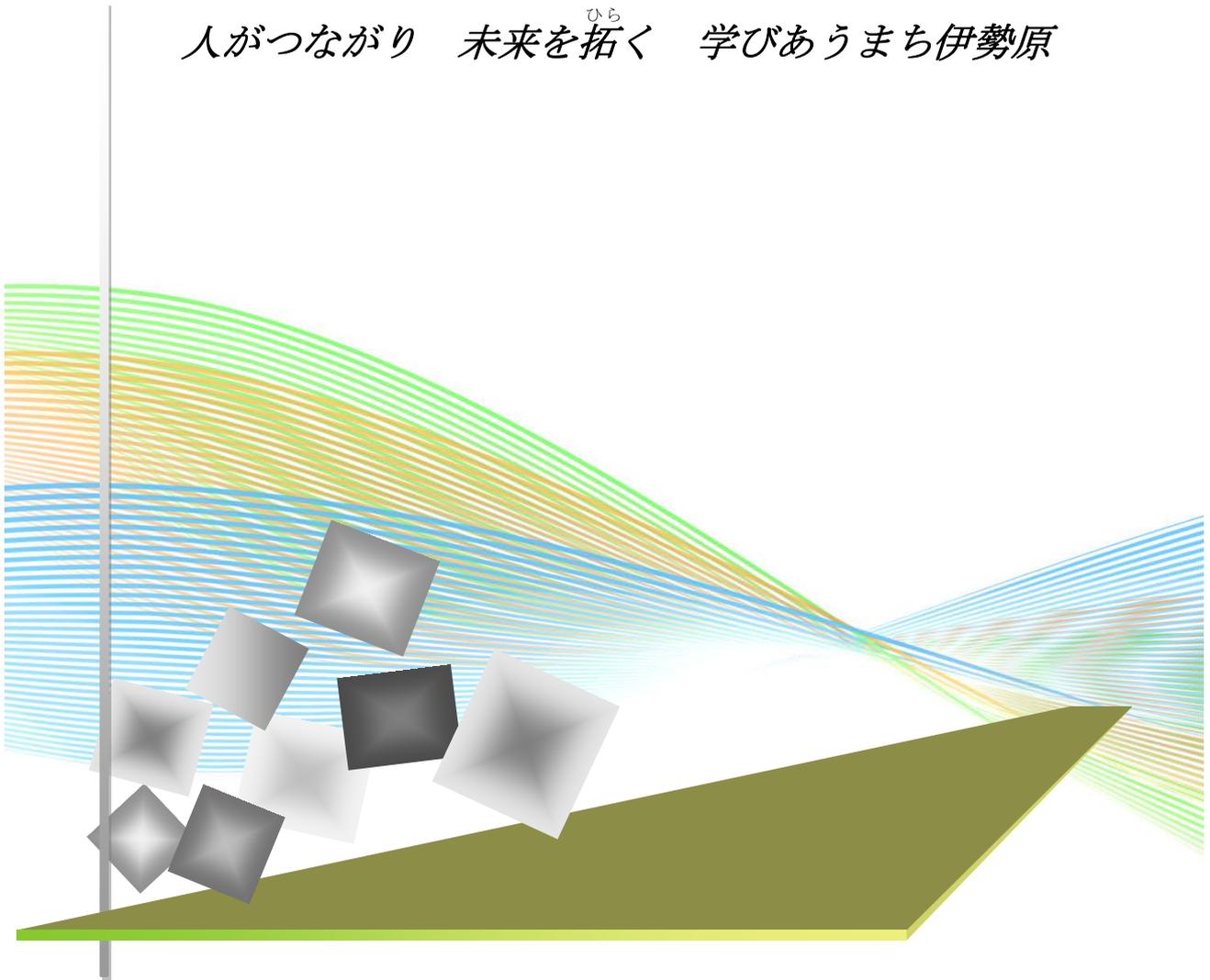


平成30年度

教育委員会点検評価報告書 (平成29年度対象)

対象事業: 伊勢原市教育振興基本計画 後期基本計画

人がつながり 未来を拓く<sup>ひら</sup> 学びあうまち伊勢原



伊勢原市教育委員会

# 目次

I. 点検評価の概要	1~2
II. 伊勢原市教育振興基本計画について	3~12
III. 教育委員の意見	13
IV. 学識経験者による総括的な意見	14~18
V. 点検評価シート	19~91

## 目標1 幼児教育への支援

就学相談の充実	22
幼児家庭教育学級の開催	23
幼稚園・保育所と小学校との交流	24
地域教育機関等連絡協議会の開催	25

## 目標2 学校教育の充実

小学校教科担当制等の推進	26
きめ細やかな指導体制の推進	27
道徳教育・人権教育の推進	28
伝統や文化等に関する教育の推進	29
読書活動の推進	30
学校図書館の整備充実	31
定期健康診断及び感染症予防への取組	32
体力テスト結果の分析・検証	33
授業及び部活動への専門家等の派遣	34
小中学校9年間を見通した教育活動の推進	35
小中学校と高等学校及び特別支援学校等の連携	36
豊かな体験活動の推進	37
外国語教育の推進（ALTの配置）	38
特色ある教育モデル事業	39
外国語教育推進連絡協議会の開催	40
外国につながるのある児童生徒への支援	41
情報教育の推進（教育用PCの整備）	42
環境教育の推進	43
キャリア教育の推進	44
中学校給食導入検討	45
小中学校における食育推進	46
教育相談の充実	47
通級指導教室での児童指導	48
特別支援学級への介助員の配置	49
専門家による教職員への助言と相談の実施	50
適応指導教室の運営	51
支援を要する家庭への就学援助	52
特別支援学級就学支援	53
校内研究会の充実	54
教職員研修の充実	55
教職員による教育研究の充実	56
教職員等の人権研修の充実	57

教職員 ICT 環境の整備	58
教職員の健康診断及びメンタルヘルス相談の充実	59

### 目標3 地域全体で取り組む教育力の向上

学校と地域との協働	60
学校からの情報発信	61
小中学校通学路の安全対策	62
訪問型家庭支援事業	63
教育講演会の開催	64
家庭教育講演会の開催	65

### 目標4 学校教育環境の整備充実

小中学校校舎屋上・外壁の修繕	66
小中学校施設の改修	67
小中学校教室への扇風機設置	68
基金を活用した教育・文化の振興	69
学校環境衛生検査の実施	70
災害時における児童生徒の安全確保	71

### 目標5 社会教育活動の振興

生涯学習や市民活動の情報提供	72
生涯学習の充実と人材活用	73
公民館を拠点とする生涯学習の推進	74
人権啓発講座・人権セミナーの開催	75
図書館利用者の利便性の向上	76
図書館資料の整備・充実	77
読書の普及・啓発	78
学校図書館の環境整備への支援	79
プラネタリウム事業の充実	80
学校と連携した取組の推進	81
地元企業や大学、ボランティアと連携した取組	82
市民活動の発表・文化芸術鑑賞機会の提供	83

### 目標6 歴史と文化遺産の継承

国指定重要文化財・宝城坊本堂保存修理への支援	84
市史編さん事業の推進	85
文化財保管施設の整備	86
文化財情報の発信	87
文化遺産と観光を結びつけた地域の活性化	88

### 目標7 教育委員会機能の充実

教育委員会（教育委員）活動の充実	89
危機管理の徹底・強化	90
教育委員会事業の点検・評価	91

# I. 点検評価の概要

## 1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律162号。以下「法」という。)第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価(以下「点検評価」という。)を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

本市教育委員会では、伊勢原市教育振興基本計画に計上した重点取組について、翌年度に点検評価を行い、その結果を報告書としてまとめ、公表するとともに、点検評価で得られた課題等を踏まえ、次年度以降の取組に反映させます。

## 2 点検評価の対象

点検評価の対象は、伊勢原市教育振興基本計画後期基本計画(以下「後期基本計画」という。計画期間：平成25年度から平成29年度の5年間。)に計上した91本の重点取組のうち、子ども部所管事業17本及びスポーツ課事業を除く70本の取組となります。

## 3 点検評価の方法

- (1) 各取組を所管する所属において、点検評価の対象となる重点取組について、その取組実績を明らかにし、当初の目標に対する進捗状況や有効性、効率性、また、それらの取組が対象者にどのような影響や効果がもたらされたのかなどを総合的に点検し、評価を行いました。
- (2) 各所属が行った点検評価を基に、教育委員が点検評価を行いました。
- (3) 教育委員会が行った点検評価をまとめた報告書を基に、外部の学識経験者が第三者の視点で点検評価を行いました。
- (4) 点検評価の結果を報告書としてまとめ、教育委員会での承認、市議会への報告を経て、市民へ公表しました。

## 4 経過

- 平成30年 4・5・6月 各取組を所管する所属による点検評価
- 平成30年 7月 教育委員による点検評価会議(第1回)
- 平成30年 8月 教育委員による点検評価会議(第2回)
- 平成30年 8月 学識経験者による点検評価
- 平成30年 9月 教育委員会議9月定例会への報告書議案上程
- 平成30年 10月 市議会への報告・公表

## 5 点検評価シートと評価基準

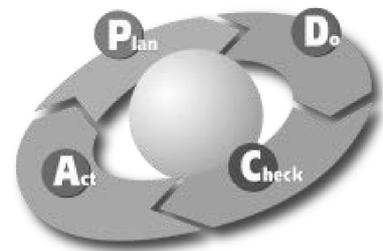
点検評価シートは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の四つの流れから成るPDCAサイクルに基づいた構成とし、Check（評価）の箇所では、進捗状況・有効性・効率性の3つの評価項目を設け、A・B・Cの3段階で評価を行いました。

なお、本年度は、教育振興基本計画の最終年度にあたるため、後期計画5年間全体の評価を行い、Action（改善）欄では、第2期教育基本計画に向けた考え方についてまとめました。

	評価基準
進捗状況	<p>後期計画に対し事業がどれだけ進捗したかを取組内容や事業指標における目標値に対する達成状況を総合的に勘案し、3段階で評価しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり（達成率100%）→A評価</li> <li>・概ね計画どおり（達成率70%～100%未満）→B評価</li> <li>・計画どおり進捗せず（達成率70%未満）→C評価</li> </ul>
有効性	<p>後期計画に掲げる「現状と課題」や「目標とする状態」に対し、取組内容が有効的（意図した目的の成果が上がっているか）であったかを総合的に勘案し3段階で評価しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い（事業は目的達成に大いに寄与し、内容や方法にほとんど改善の必要はない）→A評価</li> <li>・普通（事業は目的達成にかなり寄与したが、内容や方法にある程度の改善が必要）→B評価</li> <li>・低い（事業は目的達成にある程度寄与したが、内容や方法に大いなる改善が必要）→C評価</li> </ul>
効率性	<p>目的の達成に向けて、取組が効率的に実施されているか、コスト面、実施方法、進捗状況等を総合的に勘案し、3段階で評価しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的に実施されている （事業のための資源はムリなくムダなく使用された。工夫や改善の必要はほとんどない）→A評価</li> <li>・改善の余地がある （事業のための資源はムリなくムダなく使用されたが、ある工夫や改善が必要）→B評価</li> <li>・抜本的な改善が必要である （事業のための資源はムリなくムダなく使用されたが、大いなる工夫や改善が必要）→C評価</li> </ul>

### ■伊勢原市教育委員会委員（敬称略・順不同）

役 職	氏 名
教育長	鍛 代 英 雄
教育長職務代理者	重 田 恵美子
委員	菅 原 順 子
委員	渡 辺 正 美
委員	永 井 武 義



### ■学識経験者（敬称略） 東海大学 齋藤 道子

## Ⅱ. 伊勢原市教育振興基本計画について

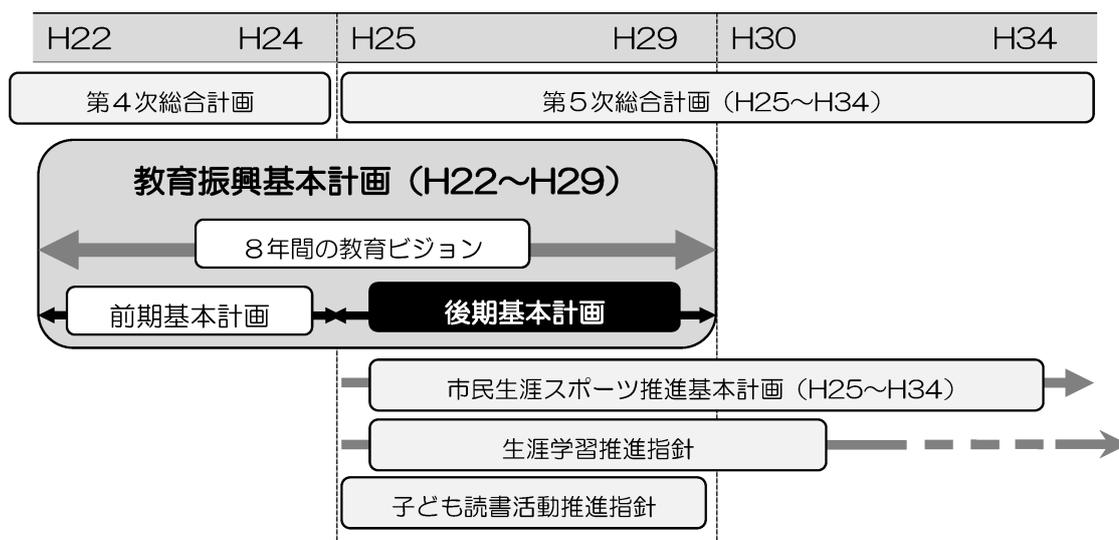
### 1 策定の趣旨

伊勢原市では、平成18年12月に改正された教育基本法の趣旨を踏まえ、同法第17条第2項の規定に基づき、伊勢原市の財産である「人と自然と歴史の調和」をコンセプトに平成22年3月に「伊勢原市教育振興基本計画」を策定しました。

本計画は、平成22年度から29年度までの8年間にわたる本市が目指す教育の姿を示した「教育ビジョン（基本理念と教育の方向性）」と、具体的な施策を掲げた「基本計画」で構成されています。

平成22年度から始まった前期基本計画が平成24年度で終了するのを受け、平成25年度から29年度までの5年間の後期基本計画を策定しました。

また、これに併せ、教育振興基本計画の分野別の計画や指針として「伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画」や「伊勢原市生涯学習推進指針」、「伊勢原市子ども読書活動推進指針」を合わせて策定しました。



### 2 後期基本計画の基本的な考え方

後期基本計画を策定するに当たり、分野別に7つの「目標」を定め、それぞれの「施策方向」ごとに「現状と課題」を整理し、今後5年間に取り組むべき施策を打ち出し、重点取組を掲げました。

また、達成度を図る指標として、重点取組ごとに平成29年度までの目標を設定しました。

## (1) 社会情勢の認識

### ～「教育振興基本計画」の策定から現在までの国内社会の動き～

現在のグローバル化や他国に類を見ないほどの少子高齢社会の到来といった急激な社会変化は、生産年齢人口の減少や税収の減少、社会保障費の増大などをもたらし、現在の社会が抱える大きな課題となっています。また、価値観やライフスタイルの多様化に伴う都市化や核家族化の進行は、地域における結びつきの希薄化や孤立化を招いています。

その他にも、物質的に豊かで快適な社会環境のもとで育ち、合理主義や競争社会の価値観の中で育った若者世代は、子育てにストレスを感じたり、自身の生活にとって子の存在が負担と感じてしまう親がいるとの指摘もあります。

このような地域社会の希薄化や家庭の教育力の低下は、親や子どもたちの孤立感や規範意識の低下を招き、虐待やいじめなどにつながる大きな要因と考えられています。こうした社会状況の中、人と人、地域と地域のつながりや絆があらためて見直されています。

## (2) 教育ビジョン（基本理念と教育の方向性）

8年間の教育ビジョンを実現するために、3つの視点から目指すべき方向性を定めています。

### 視点1

・一人ひとりの子どもの健やかな成長を支えていくために

### 視点2

・生き生きと暮らし、学びあうまちづくりのために

### 視点3

・歴史と文化遺産を継承するために

教育振興基本計画の見直しについては、平成22年3月の前期基本計画の策定時から現在までの社会情勢を勘案した中で、従前からの施策の重要度の順位付けを変えることはあっても、本市が目指す教育の姿を明示した「教育ビジョン」に影響を与えるような大きな社会的要因はなく、また、法制度上の大きな変更もないため、これについては、平成29年度まで堅持することとしました。

## (3) 教育委員会点検・評価からの検証

教育振興基本計画前期基本計画については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、行政内部の自己点検・評価に加え、専門性と公平性を担保するため、外部の人材による点検・評価を行ってきました。計画・実行・評価・改善（PDCAサイクル）の実践に基づいた点検・評価の結果を検証し、そこから見えてきた課題と外部人材の意見・助言を踏まえて後期基本計画を策定しました。

#### (4) 第5次伊勢原市総合計画と後期基本計画との関係

後期基本計画は、平成25年度から平成34年度までを計画期間とする第5次伊勢原市総合計画との整合を図り策定しました。

総合計画では、次代を担う子どもや若者たちへ、自信を持って伊勢原を引き継ぐことができる力を「未来へ届ける力」と位置付け、「暮らし力（誰もが明るく暮らせるまち）」、「安心力（地域で助け合う安全で安心なまち）」、「活力（個性豊かで活力あるまち）」、「都市力（住み続けたい快適で魅力あるまち）」、「自治力（みんなで考え行動するまち）」の5つの力として整理し、それぞれの力の分野ごとに「まちづくりの目標」と「まちづくりの方向」が示されています。

これらを踏まえ、本計画では、総合計画の目指すまちづくりの一端を担うべく、学校教育の充実をはじめ、生涯学習や生涯スポーツの推進、歴史と文化遺産の継承など、総合計画の主な事業に掲げる教育に関する23事業をはじめ、前期基本計画の着実な実行と新たな課題に対応する91事業を本計画の重点取組として設定しました。

#### (5) 下位計画との関係

本基本計画と並行して策定した次に掲げる分野別の計画・指針において、本基本計画で掲げる教育ビジョンの視点に立ち、その具現化に向けた方策や取組を示しました。

教育ビジョンの視点

##### 伊勢原市生涯学習推進指針

- 家庭・地域と連携して行う子育て支援
- 生き生きと暮らすことのできる地域社会づくり
- 地域活力や地域資源を活用した社会教育の充実

##### 伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画

- 誰でも気軽にスポーツやレクリエーションができる環境づくり

##### 伊勢原市子ども読書活動推進指針

- 家庭・地域と連携した子育て支援
- 地域活力や地域資源を活用した社会教育の充実

### 3 前期基本計画の総括

#### 目標1 学校教育の充実

- 確かな学力の向上に向け、小学校1・2年生での35人学級の導入や、主に小学校高学年での教科担当制の実施等、児童の個に応じたきめ細やかな学習環境を整えるなど、基礎的・基本的な知識の習得ができる環境が概ね目標どおり推進されました。
- グローバル人材の育成に向け、国際化への理解や高度情報化等、時代の変化に対応できる能力を育成する環境づくりを推進し、ALTの配置時間数の増や教育用コンピュータの配置等、当初の目標以上に推進することができました。
- 通級指導教室については、言語の理解や表現が苦手な児童を対象にした既存の「ことばの教室」に加え、集団行動やコミュニケーションが苦手な児童を対象にした「まなびの教室」を開設し、スムーズな学校生活を総合的に支援することができました。
- 教職員は、児童生徒一人ひとりに応じた学習・生活指導や、様々な学校を取り巻く環境の変化により、今まで以上に高い資質が求められています。指導力を伸ばす研修に加え、今日的な教育課題を研究する自主課題別調査研究を行うなど、多くの教職員が研修及び研究に参加できる体制が整っており、他の自治体に比べて充実した研修内容となっています。

#### 目標2 地域全体で取り組む教育力の向上

- 学校教育指導協力者の増加や、学校地域連絡会での情報共有、ホームページ及び「学校だより」での情報発信等により、「開かれた学校づくり・運営」が進みました。
- 地域での様々な団体の協力の下、児童生徒が様々な体験学習に参加できる機会が得られています。学校以外でのこうした体験は大変有意義ですので、今後も地域と学校、行政が連携した継続的な活動が求められます。

#### 目標3 教育環境の整備充実

- 学校施設の整備については、限られた予算の中、国の補助金を有効に活用しながら「学校施設保全計画」に基づき計画的に行った結果、徐々にではありますが、施設改修が進みました。
- 教職員への1人1台の校務用コンピュータの導入が目標どおり達成することができました。これにより校内ネットワーク及び市内の教育機関とのネットワークが構築でき、業務処理の効率化を図ることができました。
- PTAや自治会との連携により、通学路の安全点検や登下校時の見守りが行われ、児童を見守る取組が積極的に行われました。また、民生委員やボランティア等による登下校時の見守りも根付いています。
- 社会教育施設の運営には一定の受益者負担が求められる時期にきています。他の自治体の動向を踏まえながら、継続して議論を深めました。

#### **目標4 社会教育活動の振興**

- 公民館や図書館、子ども科学館では、それぞれの社会的ニーズに合わせた様々な催し物、講座等を行っています。多くの市民の参加を促すため、各所属が創意工夫を図るとともに、地域の人材や各種ボランティアとの連携により、より充実した取組を行うことができました。
- 生涯スポーツの推進については、「いつでも、どこでも、だれもが」を合い言葉にスポーツ・運動の普及に取り組んだ結果、市民の運動の実施率が上がりました。また、スポーツ・運動を行う環境を整えるため、東海大学と連携した「総合型地域スポーツクラブ」の運営を充実させました。

#### **目標5 歴史と文化遺産の継承**

- 市の文化財保護を推進するため「伊勢原市文化財保護条例」を全面改正し、文化財の適切な保存、継承、まちづくりを行う体制を整備しました。そして、その一端を担う人材として「いせはら歴史アドバイザー」を計画的に養成することができました。また、国指定重要文化財である日向・宝城坊本堂の大規模修繕に対して計画的な支援を図ることができました。

#### **目標6 教育委員会機能の充実**

- 教育委員会への信頼や理解を深めるため、学校や様々な関係機関等との意見交換を深めることができました。また、教育委員相互でも、いじめや体罰の問題等、その時々教育課題に対して活発な議論を行いました。
- 教育委員会の事務事業に対する自己点検評価として、教育委員自らが直接個別の取組に対する点検評価を行うシステムを確立しました。

## 4 前期基本計画からの変更点

後期基本計画の策定に当たっては、幼児教育への支援や学校教育におけるきめ細やかな学習への支援、各学習機会における地域との連携及び人材活用、学び返しなどといった視点に重点を置き、新規事業の計上と施策体系の見直しを行いました。

主な変更点は次のとおりです。

人生のライフステージに合わせ、乳幼児期、学校教育期、青年期、成人期、円熟期等の一人ひとりの成長と生き方を支援する施策体系としました。

学校教育に係る取組について、授業や相談業務等により児童生徒を支援していく取組と、学校が保護者や地域等との連携を通して児童生徒を支援していく取組とに区分しました。

学校教育に係る取組について、児童生徒や教職員を支援するソフト部門と施設整備を行うハード部門に区分しました。

本計画が重点取組として位置付ける事業を明確にするため、経常的な取組については、本計画への掲載から省きました。

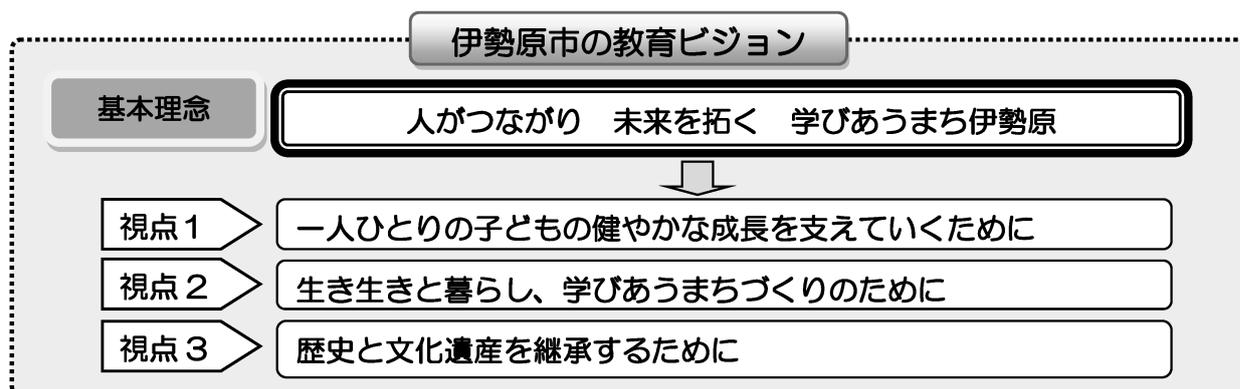
重点取組の計上の仕方について、施策の体系が不明確になり、目指すべき方向性が見失われないよう、施策上、相互に関連があった場合においても、各分野の重点取組を再掲載しないこととしました。

平成22年度以降の社会的課題等を踏まえ、「地域人材の活用」、「家庭支援」、「防災」、「危機管理」といった視点に基づいた取組を新たに打出しました。

また、伊勢原市の目指す教育の方向性や伊勢原市生涯学習推進指針が示す取組を具現化するため、地域の多様な人材を活用した学校・家庭・子ども支援の内容を盛り込みました。



## 5 伊勢原市教育振興基本計画・後期基本計画 施策体系



### 後期基本計画

目標	施策方向	施策
幼児教育への支援	1-1 子どもに応じた保護者への相談に努めます	1-1-1 未就学児に関する相談や就学相談機能の充実
	1-2 家庭の教育力向上と経済的支援を図ります	1-2-1 家庭の教育力向上に向けた支援 1-2-2 就園支援等の充実
	1-3 幼稚園・保育所と小学校の連携を推進します	1-3-1 幼稚園・保育所と小学校の連携推進
学校教育の充実	2-1 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をはぐくみます	2-1-1 確かな学力の育成 2-1-2 豊かな人間性の育成 2-1-3 健康の保持増進、体力の向上 2-1-4 小中連携と異校種間連携の推進
	2-2 教科等の横断的・総合的な教育活動の充実を図ります	2-2-1 豊かな体験活動の推進 2-2-2 国際理解教育の推進 2-2-3 情報・環境・キャリア教育の推進 2-2-4 食育・学校給食の推進
	2-3 子どもに応じた支援・相談体制の充実と家庭への支援を図ります	2-3-1 児童生徒に対する支援・相談体制の充実 2-3-2 家庭への就学支援等の充実
	2-4 教職員の人材育成と環境整備に努めます	2-4-1 授業力の育成を核とした教職員の資質能力の向上 2-4-2 教職員を取り巻く環境の整備

目標	施策方向	施策
教育力の向上 地域全体で取り組む	3-1 学校・家庭・地域の連携を強化します	3-1-1 開かれた学校教育の推進 3-1-2 地域との交流を通じた体験活動の推進 3-1-3 子ども・若者の健全育成のための支援 3-1-4 放課後等の子どもたちの居場所づくり 3-1-5 保護者や地域と連携した通学路の安全対策
	3-2 家庭の教育力の向上を目指します	3-2-1 家庭の教育力の向上に向けた取組
の整備充実 学校教育環境	4-1 安全で快適な学校教育環境の整備・充実を図ります	4-1-1 安全・快適な学校施設への改善 4-1-2 学校における防災体制の充実
社会教育活動の振興	5-1 多様な学習機会を提供します	5-1-1 生涯学習への支援と多様な人材活用の促進 5-1-2 図書館運営の充実 5-1-3 子ども科学館運営の充実
	5-2 生涯スポーツを推進します	5-2-1 スポーツ・レクリエーション活動の充実と支援
	5-3 文化芸術活動を推進します	5-3-1 文化芸術活動の推進
	5-4 社会教育施設の整備・充実を図ります	5-4-1 社会教育施設の整備・充実
の継承 歴史と文化遺産	6-1 市の文化財を保護し、市史編さんを推進します	6-1-1 文化財保護・市史編さんの推進
	6-2 歴史・文化の魅力発見と情報発信を推進します	6-2-1 歴史・文化の魅力発見と情報発信の推進
機能の充実 教育委員会	7-1 教育委員会機能の強化と活性化を促進します	7-1-1 教育委員会活動の充実・活性化 7-1-2 教育委員会の危機管理の徹底 7-1-3 教育振興基本計画の進行管理

## 6 後期基本計画 重点取組一覧

●印は第5次総合計画計上事業、頁が「-」の事業は子ども部及びスポーツ課所管の事業のため本点検評価の対象外

施策No.	重点取組	項	施策No.	重点取組	項
1-1-1	就学相談の充実	-	2-1-4	小中学校と高等学校及び特別支援学校等との連携	
	養護相談の充実				
	療育相談の充実				
1-2-1	幼児家庭教育学級の開催		2-2-1	豊かな体験活動の推進	
1-2-2	● 子ども・子育て支援事業	-	2-2-2	● 外国語教育の推進(ALT の配置)	
	私立幼稚園児の保護者への補助	-		● 特色ある教育モデル事業	
	私立幼稚園特別支援教育に対する補助	-		外国語教育推進連絡協議会の開催	
	私立幼稚園に対する教材教具の購入費等の補助	-		外国につながるの児童生徒への支援	
	私立幼稚園に対する施設整備費の補助	-	2-2-3	情報教育の推進 (教育用 PC の整備)	
	ひとり親家庭への入学支度金の支給	-		環境教育の推進	
1-3-1	幼稚園・保育所と小学校との交流		2-2-4	● 中学校給食導入検討	
	地域教育機関等連絡協議会の開催			小中学校における食育推進	
2-1-1	● 小学校教科担当制等の推進		2-3-1	● 教育相談の充実	
	きめ細やかな指導体制の推進			● 通級指導教室での児童指導	
2-1-2	道徳教育・人権教育の推進			特別支援学級への介助員の配置	
	伝統や文化等に関する教育の推進			専門家による教職員への助言と相談の実施	
	読書活動の推進		適応指導教室の運営		
	学校図書館の整備充実		2-3-2	支援を要する家庭への就学援助	
2-1-3	定期健康診断及び感染症予防への取組			特別支援学級就学支援	
	体力テスト結果の分析・検証		2-4-1	校内研究会の充実	
	授業及び部活動への専門家等の派遣			教職員研修の充実	
2-1-4	小中学校9年間を見通した教育活動の推進			教職員による教育研究の充実	
			2-4-2	教職員等の人権研修の充実	
				教職員 ICT 環境の整備	
			教職員の健康診断及びメンタルヘルス相談の充実		
			3-1-1	学校と地域との協働	

施策No.	重点取組	項	施策No.	重点取組	項	
3-1-1	学校からの情報発信		5-1-2	読書の普及・啓発		
3-1-2	子どもを対象とした体験活動の充実	—		学校図書館の環境整備への支援		
	若者の活動への支援	—	5-1-3	プラネタリウム事業の充実		
3-1-3	● 子ども・若者計画の策定	—		学校と連携した取組の推進		
	● 子ども・若者への相談体制や指導の充実	—		地元企業や大学、ボランティアと連携した取組		
	子ども・若者の健全育成の推進	—	5-2-1	● スポーツ競技大会の開催	—	
3-1-4	● 児童コミュニティクラブの充実	—		● 総合型地域スポーツクラブの運営支援	—	
	● 放課後子ども教室の開設	—		伊勢原射撃場を活用した競技の振興と地域の活性化	—	
3-1-5	小中学校通学路の安全対策		5-3-1	市民活動の発表・文化芸術鑑賞機会の提供		
3-2-1	● 地域の多様な人材を活用した家庭教育支援			● 青少年センターの改修	—	
	教育講演会の開催		5-4-1	子ども・若者の活動施設の維持管理	—	
	家庭教育講演会の開催			新たなスポーツ広場の整備	—	
4-1-1	● 小中学校校舎屋上・外壁の修繕			6-1-1	● 国指定重要文化財・宝城坊本堂保存修理への支援	
	● 小中学校施設の改修		市史編さん事業の推進			
	● 小中学校教室への扇風機設置		文化財保管施設の整備			
	基金を活用した教育・文化の振興		6-2-1	● 文化財情報の発信		
	学校環境衛生検査の実施			文化遺産と観光を結びつけた地域の活性化		
4-1-2	災害時における児童生徒の安全確保			7-1-1	教育委員会（教育委員）活動の充実	
	● 生涯学習や市民活動の情報提供			7-1-2	危機管理の徹底	
5-1-1	● 生涯学習の充実と人材活用		7-1-3	教育委員会事業の点検・評価		
	公民館を拠点とする生涯学習の推進					
	人権啓発講座・人権セミナーの開催					
5-1-2	図書館利用者の利便性の向上					
	図書館資料の整備・充実					

### Ⅲ. 教育委員の意見

今年度の点検評価は後期基本計画の最終年度の点検評価でもあり、各事業の5年間の成果を確認する作業となりました。取組結果からは、事業内容の精査や目標設定等に改善の余地がみられる事業もありましたが、概ね計画どおりに事業が達成できており、着実な成果が得られたものと考えます。また、点検評価を実施することにより、学校における教育課程に関わる取組と教育委員会としての取組の評価基準の明確化の必要性が把握でき、次期計画の事業整理ができた点は大きな収穫であったと認識しています。

学校教育に係る事業では、厳しい予算上の制約もある中、創意工夫を図り様々な課題に対応してきました。ハード面では、学校施設の改修や市民ファンドを活用した修繕や備品拡充、ICT環境の整備等が図られました。未整備箇所への対応と施設維持・補修を並行して実施する必要があることから、今後も計画的な整備が求められます。

また、ソフト面では、きめ細やかな指導体制を推進するため、職員配置やアドバイザーの派遣を継続的に行いました。教職員による多岐にわたる研究や段階的な研修の積み重ねが、今後の教育活動に活かされていくことを期待します。中でも、個々の教育機関の連携を図るための「地域教育機関等連絡協議会」の開催は伊勢原独自の取組でもあり、大変有意義な事業と考えています。これらの取組は、成果を数値等で検証することが難しい分野ではありますが、地道な取組が続けられることが望まれます。

社会教育に係る事業では、生涯学習への支援を様々な分野に向けて行うことができました。学習や趣味が継続できる環境を整備することは、心の豊かさや生きがいといった学習需要に応えることに留まらず、社会の活性化、高齢者の社会参加・青少年の健全育成など地域全体に影響をもたらす事業でもあります。各種講座やセミナーの開催、図書館の整備、子ども科学館運営、文化財情報の発信を行うことにより学習基盤が整備されたほか、公民館まつりや市展、文化祭の開催により、活動内容の成果を発表する機会が提供され、生涯学習への一定の支援がなされたと評価しています。

多様化するニーズに応えるための持続的な支援と、伊勢原ならではの地域性を活かした芸術・歴史文化の振興が図られるよう、生涯にわたり豊かな人間性を育むことのできる環境が整備されていくことを期待します。

伊勢原市教育委員会は、新制度に移行し、新たな体制の下、研修会や学校訪問による情報収集のほか、総合教育会議にて市長と連携を図るなど、現代の複雑化する教育課題に対応できる教育委員会を目指してきました。これからも、市民目線、保護者目線からの視点を念頭に置き、柔軟で機知に富んだ組織で在れるよう力を尽くしていきます。

## IV. 学識経験者による総括的な意見

『平成 30 年度 教育委員会点検評価報告書（平成 29 年度対象）』に対し、外部の者としての若干の感想と意見を述べたいと思います。

### 【1】30 年度評価作業（29 年度対象）の位置づけと目指すべきもの

本報告書の点検評価が対象とする平成 29 年度は、伊勢原市教育振興基本計画（平成 22 年度～29 年度）のうち、25 年度からの後期基本計画の最終年度に当たります。したがって 29 年度という単年度に対する評価に留まらず、後期基本計画全体を見渡しての総合的評価の位置づけを持つものです。それは本報告書中の「教育委員の意見」にも「各事業の 5 年間の成果を確認する作業となりました」と記されているとおりです。

そうした本年度の点検評価の持つ位置づけから、この点検評価がこれまでの後期基本計画の成果の確認を通して、次の第 2 期教育振興基本計画（以下、「第 2 期振興計画」と表記）に向けて、受け継ぐべき成果、改善すべき課題を浮き彫りにし、次の第 2 期振興計画へ有効なバトンを繋ぐ内容となっていることが目指されます。

そうした視点にたつて、本年度の点検評価作業を以下確認していきたいと思います。

### 【2】点検評価作業について

#### A、点検評価シートについて

点検評価シートは昨年度の報告書（28 年度対象）で大きく変更されました。「Plan【計画】」欄では、以前はこの欄に記される内容が「実績」か「目標」か判別しにくい事例があったのに対し、昨年度より「実績」に統一され、さらに本来の評価対象年度ではない 29 年度についての「達成見込」欄が設けられました。「Check【評価】」欄では評価対象年度の評価値に留まらず、25 年度からの年次別評価が一覧形式で示されて後期基本計画期間中の事業の推移が見て取れるようになったことに加えて、新たに「後期基本計画期間全体の自己点検評価」欄が設けられました。

こうした昨年度の変更点に加え、さらに今年度は「Action【改善】」欄にも変更が加えられ、昨年度の「事業推進上の課題」と「今後の方向性」の見出しが「第 2 期教育振興基本計画に向けた考え方」と変更になりました。

こうした昨年度から今年度にわたる様式変更により、評価作業そのものの精度が上がり、さらに全体として 29 年度までの後期基本計画全体の見通しが意識された形式となりましたが、特に昨年度に「29 年度達成見込」欄が設けられたことで、本年度の評価作業と有機的に連動できる視点が得られたように思います。すなわち、昨年度に記された「29 年度達成見込」欄を本年度の「29 年度実績」欄とあわせ見ること、昨年予想された「達成見込」が実際にどうであったかが確認でき、それにより後の B 中で具体的に触れますが、第 2 期振興計画に向けての課題の確認や目標値策定の留意点が見出しやすい形になっているように思われます。

昨年度の評価作業から顕著となった第 2 期振興計画を見据えた姿勢が今年度のシート様式に受け継がれ、より有効に次期計画に繋げようという姿勢が貫かれています。

## B、評価内容について

ここでは主として、「29年度実績」と「29年度までの目標」との比較と「Check【評価】」欄に示された「後期基本計画期間全体の自己点検評価」の評価値に注目しながら、第2期振興計画との関連からいくつかの印象と感想を述べたいと思います。

評価対象の施策70本に含まれる事業は全体で102あります。そのうち目標が数値で示されている、あるいは目標が文言であっても実績と比較可能なものに限って「29年度実績」と「29年度までの目標」を比べてみた結果、実績が目標を上回った事業と目標に及ばなかった事業とをそれぞれまとめると別表のようになります。

目標を上回ったのは14事業、目標に及ばなかったものは25事業です(注)。この数値だけを見ると、目標に及ばなかったものがかなりあるように思われますが、別表からも分かる通り、実績と目標との間に大きな開きがあるものは少なく、さらに25年度からの各年度の評価の推移から見ても、年度によって目標値に及ばなかった事業はあるものの、後期基本計画全体として各事業はほぼ順調に実施されたと認められます。また昨年度の報告書で指摘させていただいた評価基準と実際につけられた評価値との間に違和感を覚える事例も今回の報告書では殆ど無く、別表のように目標を上回った事業も多く、29年度の評価値すなわち後期基本計画期間全体の自己点検評価はほぼ妥当と考えられます。これだけの多くの事業が評価値に示されたような成果を挙げられた事に対し、関係部署の各位に敬意を表したいと思います。

その上で、第2期振興計画との関わりで、特に「目標」に関しての意見・感想を2点述べたいと思います。

### ①他部署との調整や不確定な需要を前提とする目標の問題

例えば、「29年度達成見込」(昨年度報告書)と「29年度実績」を比べた場合、「理科支援員の派遣回数」(「5-1-3」のNo2「学校と連携した取組の推進」)が見込16回に対して実績が1回であった原因は学校と科学館との日程調整がうまくいかなかったためであり、「予約図書の定期配送、回収」(施策「5-1-2」のNo1「図書館利用者の利便性の向上」)の週当たりの配送回数の「見込」2回が「実績」は0回であった理由は現在定期的な配送希望者が無いためでした。このように他者との関係によって実施状況が左右される事業の場合、目標をどう設定するかという問題が、第2期振興計画でも課題となることが見て取れるように思われます。

また、施策番号5番台の社会教育活動関連の事業が昨年度までと同様、評価値がBのものが目に付きます。さらに「小学校5・6年生へALT配置」(施策「2-2-2」「外国語教育の推進(ALTの配置)」)や「保管施設の整備」(施策「6-1-1」「文化財保管施設の整備」)なども特に進捗状況の評価がBですが、これらはいずれも予算措置を伴うものであり、教育委員会の努力のみでは事業の計画通りの進展が困難なこともある程度予想されます。市の他部署との密接な連携が不可欠な事業に関しては、目標設定時にはもちろん、事業の実施期間中にも市の関連部局等との密接な相談・調整が望まれます。

### ②設定目標に関する現在の問題が第2期振興計画では改善が図られた点

今回の評価対象102事業の「目標」に注目すると、数値目標が43、非数値目標が59となっています。もちろんすべての事業が数値目標化できるものではありませんので、非数値目標が過半数である

こと自体は問題ではありません。ただその非数値目標 59 のうち 43 事業が「継続実施」、2 事業が「継続開催」という文言であることに、実施（開催）自体が目標ではないはずですからやや違和感を覚えました。継続実施することで何を指すのか、非数値目標の場合それが分かる文言による目標設定に、第 2 期振興計画では改善されることを期待したいという感想をもちました。しかし平成 30 年 3 月にすでに公表されている「伊勢原市第 2 期教育振興基本計画」の詳細では、目標に関して年次ごとの「事業工程」欄に加えて「事業指標」欄が設けられ、そこに平成 34 年度の目標値が記され、その目標値は非数値目標が格段に減少して数値目標が増加しています。このように、今年度までの後期計画の問題点が新たな第 2 期振興計画では改善されていることは大きく評価すべきと思います。

### 【3】第 2 期振興計画への期待

以上点検評価について感想・意見を述べましたが、膨大な時間と労力をかけて行なわれた評価作業にまず敬意を表したいと思います。特に今回の点検評価作業では後期基本計画の総括という点をしっかり踏まえ、その上で第 2 期振興計画へ有機的かつ有効につなげようという意志のもとに為されていることを、大きく評価したいと思います。

大山をはじめとする自然・歴史そして文化遺産は伊勢原市の持つ大きな財産です。そうした環境のもとで、伊勢原の財産を市民全体で受け継ぎ、享受し、次代へ伝えていこうとする思い、地域社会や諸団体と積極的に連携しながら児童生徒一人一人へのきめ細かな教育を目指していこうとする思い、そうした熱心な思いを教育委員会関係者が共有していることをこの報告書は全体として示していると感じます。

この報告書中の点検評価シートの「Action【改善】」欄の随所に示された第 2 期振興計画に向けての問題意識を活かし、さらに評価値が B となった事業の原因の確認と必要な場合は目標の見直しといった作業を通して、30 年度以降第 2 期振興計画がさらに有効に推進され、教育委員会が求める方向へさらに前進されることを期待いたします。

(東海大学 齋藤道子)

[別表]

目標を上回った事業

(備考欄の\*印は同じ取組みの中に他の事業もあり、それらを含めた評価であることを示す)

(注) 1 事業中に小学校・中学校ごとに別の目標がたてられている等の場合で、そのうち一方でも目標を上回る場合、あるいは逆に達していない場合はそれぞれ1事業と数えている。

施策	取組名	事業名	実績	目標	進捗	有効性	効率性	備考
2-1-2	学校図書館の整備充実	中学校図書標準率達成 (蔵書数)	85.2%	85%	A	A	B	*
2-1-4	小中学校9年間を見通した 教育活動の推進	小中学校教職員の交流 (年間開催数)	45回	25回	A	A	A	
2-2-2	特色ある教育モデル事業	モデル校におけるALTの授業 (年間実施回数)	53回	35回	A	A	A	
2-3-1	教育相談の充実	教育相談員の配置 (相談員数1日あたり)	5.6人	4, 8人	A	A	A	*
2-3-1	通級指導教室での児童指導	まなび教室への受入児童数の拡大 (受入可能児童数)	38人	33人	A	A	A	
3-2-1	訪問型家庭支援事業	家庭や子ども支援の連絡会等設置 (設置学区数)	4中学校区	2中学校区	A	A	A	
4-1-1	小中学校校舎屋上・外壁の修繕	修繕が必要な28棟中全面的修繕が 完了した棟数	21棟	15棟	A	A	A	
4-1-1	小中学校施設の改修	トイレの洋式化 (洋式便器の割合)	55, 16%	50%	A	A	A	
5-1-1	生涯学習や市民活動の情報提供	サポートブックによる情報提供 (掲載団体数)	1197団体	650団体	B	B	B	
5-1-2	図書館資料の整備・充実	図書等の購入 (年間購入数)	7256冊	7000冊	A	A	A	*
5-1-3	地元企業や大学、ボランティアと 連携した取組	ロボットフェスティバルへの参画 (学校数・協力企業数)	9校3社	4校	A	A	A	*
6-2-1	文化財情報の発信	伊勢原文化財HPによる情報提供 (掲載メニュー数)	15メニュー	12メニュー	A	A	A	*
6-2-1	文化遺産と観光を結びつけた 地域の活性化	文化遺産を活用した見学会等 (年間参加者数)	5680人	3600人	A	A	A	*
7-1-1	教育委員会(教育委員)活動の充実	関係機関との情報交換及び視察 (年間開催数)	10回	5回	A	A	A	

(事業名が長い場合は一部省略して示している)

数値（文言）からのみ見て目標を下回った事業（備考欄の\*印は同じ取組みの中に他の事業もあり、それらを含めた評価であることを示す）

施策	取組名	事業名	実績	目標	進捗	有効性	効率性	備考
2-1-1	小学校教科担当制等の推進	非常勤講師の配置 (配置人数)	3人	4人	B	A	A	
	きめ細やかな指導体制の推進	非常勤職員の配置 (配置人数)	小学校2人	小学校4人	A	A	A	
指導補助員の配置 (配置人数)		小11 中6	小18 中8					
2-1-2	学校図書館の整備充実	小学校図書標準率達成 (蔵書数)	小92.8%	小100%	A	A	B	*
2-2-2	外国語教育の推進 (ALTの配置)	5・6年授業への配置 (年間配置回数)	17回	30回	B	A	A	*
	外国につながるのある 児童生徒への支援	一人当たりの平均指導時間 (年間指導時間)	小16 中12	小40 中40	B	A	B	
2-2-3	情報教育の推進 (教育用PCの整備)	児童生徒用パソコンの設置	小508 中231	小551 中281	A	A	A	
2-3-1	特別支援学級への 介助員の配置	介助員の配置 (1日あたりの配置人数)	小20 中5	小23 中6	A	A	B	
3-2-1	教育講演会の開催	教育講演会の開催 (参加人数)	640人	800人	A	A	A	
5-1-1	生涯学習の充実と人材活用	連絡調整協議会の設立・開催	未実施	協議会の 開催	B	B	A	
		生涯学習推進リーダーの養成	15人	25人				
	公民館を拠点とする生涯学習の推 進	各種学級、講座の開催	156講座	170講座	A	A	A	*
公民館の利用者数	257,107人	270,000人						
5-1-2	図書館利用者の利便性の向上	予約図書の定期配送、回収	0回	4回	B	B	B	
		公民館への返却ポストの設置	0箇所	6箇所				
	図書館資料の整備・充実	図書等の寄贈受入れ (年間受入数)	1,289冊	3,000冊	A	A	A	*
	学校図書館の環境整備 への支援	学校図書のデータベース化 (実施校数)	小0 中2	小3 中4	B	B	B	
5-1-3	プラネタリウム事業の充実	天体観察会(実施回数)	予定14 実際7	15回	A	A	A	*
		ま屋の星を見よう (実施回数)	予定14 実際8	20回				
	学校と連携した取組の推進	理科支援員の派遣回数 (年間派遣回数)	1回	50回	B	A	B	
教職員の受入れ (年間受入数)	6人	10人						
6-1-1	文化財保管施設の整備	保管施設の整備	情報収集 一部修理	施設整備	B	B	A	
6-2-1	文化財情報の発信	伊勢原文化財HPアクセスの拡大 (年間アクセス数)	6,531件	8,000件	A	A	A	*
		歴史解説アドバイザーの育成	97人	100人				
6-2-1	文化遺産と観光を結びつけた 地域の活性化	展示室の整備(進捗状況)	検討	整備運営	A	A	A	*

(事業名が長い場合は一部省略して示している)